

---

日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第103号 2008年1月26日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

---

■■ 目次 ■■

日本図書館文化史研究会 2007年度第3回研究集会のご案内	2
オプションツアーのご案内	5
日本図書館文化史研究会 2007年度第2回例会報告	7
ナトコ映写機講習会の思い出(田澤 恭二)	8
研究例会発表募集のお知らせ	
臨時研究例会のご案内	10
運営委員会通信	11
事務局だより	12
25周年記念事業寄附金ありがとうございます	
会費納入のお願い	
住所変更等のご連絡をお願いします	
会員動向	

日本図書館文化史研究会

2007 年度第 3 回研究例会のご案内

2007 年度第 3 回研究例会を、西日本図書館学会との共同開催で、下記のように実施することになりました（西日本図書館学会は、2007 年度図書館学セミナーとして実施します）。

例会終了後には、懇親会を共同開催します。また、例会翌日にはオプションルツアーを計画しました。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 時： 2008 年 3 月 1 日（土） 13：45～17：15
    - ◆ 当初の予定より、日程が 1 週間繰り上がりましたので、ご注意ください。
  - 会 場： 山口県立山口図書館 1 階レクチャールーム  
山口市後河原 150-1 (<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>)
  - 交 通： JR山口線山口駅より徒歩 20 分、または美術館前バス停より徒歩 10 分 (<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/sys/frame/frame-1.htm>)
    - ◆ 山口図書館の位置、東京・大阪方面からの交通案内等は、5～6 ページをご参照ください。なお、2008 年 3 月時点のダイヤが不明の路線があるため、この行程は現時点のダイヤに基づいております。切符のご手配の際はご注意ください。
  - 懇親会費： 5,000 円
  - 申込方法： 事前申込制とします。当日参加はご遠慮ください。  
次の事項を明記して、下記までに、はがき、ファックス、または電子メールにてお申し込みください。
    - ◆ 氏名（ふりがな）、所属、懇親会参加の有無、宿泊斡旋希望の有無、オプションツアー参加の有無
  - 申 込 先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908  
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司  
電子メール：[oguro@sakushin-u.ac.jp](mailto:oguro@sakushin-u.ac.jp)  
ファックス：028-670-3671
  - 申込締切： 2008 年 1 月 31 日（必着） でお願ひします。
  - プログラム
- |             |      |
|-------------|------|
| 13：00-      | 受付開始 |
| 13：45-14：00 | 開会挨拶 |
| 14：00-15：00 | 特別講演 |
| 15：15-17：15 | 研究発表 |

【特別講演】

河井 弘志 (かわい・ひろし 本研究会名誉会員)

○ 講演題名

図書館の歴史と現在

○ 講演要旨

私たちは、なぜ図書館の歴史についての知識が必要なのか、という問いにたいする答えをもたないままに、趣味的、現実逃避的な気持で図書館の歴史を調べることが少なくない。歴史と現在という歴史哲学の根本問題に踏み込まないまでも、図書館という限られた領域のなかで、歴史と現在がどのようにつながっているのかを、素人なりに考えてみたいと思う。

【発表1】

○ 発表者

田澤 明子 (たざわ・あけこ 山口県立山口図書館資料情報課主幹)

○ 発表題名

『出納所論』に見る実践の図書館人・田村盛一について－佐野館長時代の山口県立山口図書館に始まる足跡を辿って

○ 発表要旨

田村盛一 (1893-1970) は明治 41 (1908) 年、15 歳で山口県立山口図書館に出納手として採用されて 12 年間、佐野友三郎館長の下で山口図書館の隆盛期を支えた。正に佐野の通俗図書館学校の弟子とも言える田村は、佐野の死を契機として山口を去った。沈黙を破り、図書館に関する論文を書き始めたのは青年図書館員連盟での活動からである。『出納所論』を中心に、発表論文等の資料から田村の図書館サービス論を探る。

【発表2】

○ 発表者

上野 善信 (うえの・よしのぶ 山口県立山口図書館事業推進課主査)

○ 発表題名

伊藤新一 (元明木村立図書館長) に関する一考察～間宮不二雄に『生まれながらの司書 (a born librarian)』と言わしめた図書館人～

○ 発表要旨

伊藤新一の図書館との関わりは、明木村で図書館設置許可を受けた年 (1906) からである。図書館の手ほどきをした香川政一、物心両面で支えた滝口吉良 (明城)、理論的支柱の佐野友三郎、青年図書館員連盟 (L.Y.L) 会員等との影響は見逃せない。戦前期には、図書館普及のために 50 回を超える講演行脚を全国で行う一方で、予算が乏しい明木図書館の資料充実に努力を傾注している。地元での人間関係や残された資料を通して、図書館への情熱を支え続けた彼の図書館観を考察する。

【発表 3】

○ 発表者

福永 義臣（ふくなが・よしおみ 前九州国際大学教授）

○ 発表題名

伊東新一と『図書館』－L.Y.L.との関係を中心に－

○ 発表要旨

L.Y.L.の図書館界に対する貢献は三大ツールなどのテクニカルな面ばかりではない。図書館の教育機能、わけても学校図書館の重要性を認識し、その指導：図書館的訓練、さらには改革についての意見や建言をなしている。それはJ.L.A.の答申や建言に勝るとも劣るものではない。

昭和期に入って館界の永年の悲願であった『図書館』の教科書教材化（第四期国定教科書）が実現した。しかし、館界の『図書館』に対する反応は賛否両論があった。

本発表では『図書館』に至る経緯とその背景及び伊藤新一『図書館』関係文献に基づいて、『図書館』に寄せられたL.Y.L.の声を中心に考察する。

【発表 4】

○ 発表者

小川 徹（おがわ・とおる 本研究会名誉会員）

○ 発表題名

法政大学図書館所蔵「佐野文夫文庫」中の佐野友三郎旧蔵書について

○ 発表要旨

法政大学図書館にこの文庫が受け入れられた経緯、そのなかにわずかながら父親・友三郎旧蔵の図書館と書物関係の本がある理由、その洋書をどのように佐野友三郎は読んでいたのか、を考えてみます。

17：15-17：30 閉会挨拶

18：15-20：15 懇親会

◆ 会場： 山口市湯田温泉「割烹 きむら」

山口市湯田温泉 3-3-13

(<http://www.h-kotobuki.net/kimura.html>)

TEL 083-922-3800 Fax 083-921-0260

◆ 懇親会場へは、タクシーで移動します。所要時間は 15 分程度です。

## オプションツアーのご案内

上記第3回例会の翌日に、山口県立山口図書館、ならびに山口県文書館の見学会を行います。あわせてのご参加を期待します。

1. 日 時： 2008年3月2日（日） 午前10時～12時
2. 場 所： 山口県立山口図書館、山口県文書館
3. 内 容： 県立山口図書館の書庫、文書館の書庫、歴史的な図書館用品などの見学
4. 集合時間： 午前9時50分
5. 集合場所： 県立山口図書館玄関前
  - ◆ 宿泊先から県立山口図書館までの移動方法については、現在検討中です。

### 宿泊の斡旋について

今回の例会については、宿泊の斡旋を行いません。なお、懇親会会場とホテルは同じ場所です。

- 斡旋宿泊先 プラザホテル寿（山口市湯田温泉 3-3-13）  
(<http://www.h-kotobuki.net/index.php>)

TEL 083-922-3800 Fax 083-921-0260

- 宿泊料金 素泊まり 5,400円、朝食付き 6,400円

宿泊の斡旋を希望される方は、例会の申込とあわせて、事務局までお申し出ください。直接ホテルに宿泊の予約をされた場合、上記の特別価格は適用されませんので、ご注意ください。

### ◎ 会場への交通案内

#### ◆ 飛行機を利用する場合

東京羽田空港－（飛行機）－山口宇部空港－（特急バス）－JR 新山口駅－（JR 山口線）－JR 山口駅

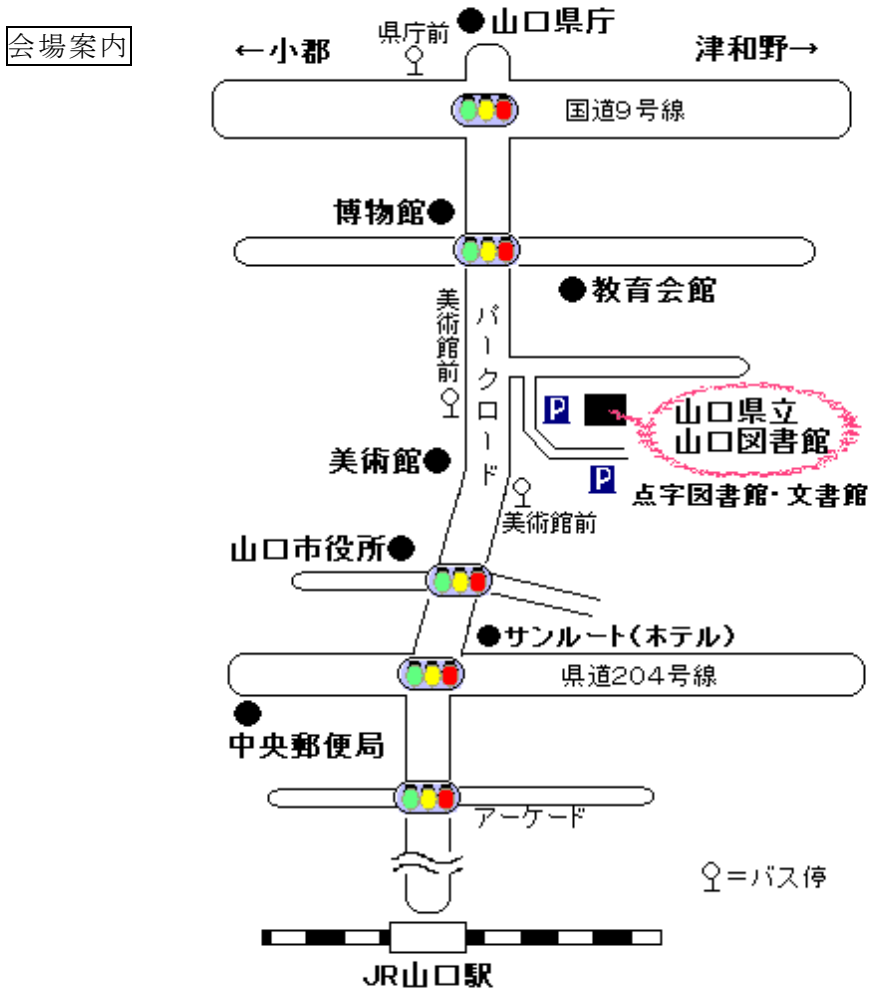
	東 京	山口宇部	新山口	山 口
ANA 691	6:50	8:30 8:50	9:24 9:36	9:56
JAL1643	7:35	9:10 9:25	9:59 10:14	10:28
ANA 693	10:05	11:45 12:00	12:34 13:02	13:16 (※)

(※特急スーパーおき4号を利用)

◆ 新幹線を利用する場合

東京－新大阪－新山口－（JR 山口線）－山口

	東京	新大阪	広島	新山口	山口
のぞみ 5 号→新大阪、もしくは広島で、下記ひかり 455 号に乗換え	6:50	9:27 9:29	10:52		
ひかりレールスター 455 号→新山口で山口線普通列車に乗換え		9:35	11:09 11:10	11:43 12:10	12:26
のぞみ 11 号→新山口で特急スーパーおき 4 号に乗換え	8:13	10:49 10:51		12:53 13:02	13:16



日本図書館文化史研究会  
2007年度第2回研究例会報告

2007年12月8日、2007年度第2回研究例会が、明治大学司書・司書教諭課程室を会場に開催されました。参加者は12名でした。

なお、発表のレジュメをご希望の方は、事務局までお申し込みください。

【発表1】

○ 発表者

河村 俊太郎（東京大学教育学研究科）

○ 発表題名

東京帝国大学図書館の管理運営～文学部心理学研究室を例に～

○ 発表要旨

文学部心理学研究室に残された史料から、東京帝国大学における部局図書館の管理運営の実態、そして中央図書館と部局図書館間の関係について検討した。その結果、心理学研究室は、各部局の中で最も管理運営の独立傾向が強い文学部の中で、図書室として財政上及び組織上独立した管理運営を基本的にはとつつも、分類や購入手続きでは利用者を意識しており、文学部全体、そして中央図書館との関係にある程度意識していることが明らかとなった。

【発表2】

○ 発表者

膽吹 覚（福井大学留学生センター）

○ 発表題名

藩校の蔵書目録の研究—滋賀・福井・石川・富山を対象として—

○ 発表要旨

本発表では、滋賀県、福井県、石川県、富山県にあった藩校を対象に、その蔵書目録の所在調査を実施し、その調査で確認された7校15点の蔵書目録を史料として、藩校の蔵書目録の書誌学的特長とそれを研究する意義について述べた。藩校の蔵書目録は、従来、日本図書館文化史や日本教育史の一史料に過ぎないという評価を受けてきた。しかし、藩校の蔵書目録を考究することによって、1つには藩校の蔵書の実態を知ることができること、2つには、藩校に於ける書籍の分類意識を知ることができること、3つには、藩校の学問に関する先行研究では不明であったことが、藩校の蔵書目録を通じて見えてくること、4つには、奇書珍本の発見の可能性のあることを提唱した。

## ナトコ映写機講習会の思い出

田澤 恭二

本『ニューズレター』第 101 号に、2007 年度第 1 回研究例会報告の一つとして、井上靖代氏の『映像にみる図書館の歴史』発表要旨が掲載されている。その文中に、昔、私とその操作技術講習会に参加して、操作免許証も貰った CIE の“ナトコ映写機”の事が述べられていて、大変懐かしい思いをした。そこで、その 51 年前の講習会の事など、思い出せる範囲で回想してみたい。

私がナトコ映写機の講習会に参加したのは、昭和 31 年、文部省図書館職員養成所在学中の事である。当時養成所は上野公園内の国立国会図書館上野分館敷地内にあり、2 年制で授業料は無料であった。但し私の所属した大学・短大卒業生の為の B コースは、授業 1 年間、インターン（有給）1 年間という変則的なカリキュラムであった。その 1 年間の授業には、講義だけでなく、様々な演習、製本実習、図書館見学などが含まれていたが、千葉県立図書館の当時としては珍しかった自動車図書館の同乗体験（2 泊 3 日）などは、今思うと非常に有益なものであった。そうしたなかで、視聴覚機器の操作演習の一環として、教室でナトコの講習会が開催され、私も参加した訳である。

周知の通り、ナトコ映写機は、戦後日本の民主化を目的として、余りにも遅れていた日本の社会教育分野を映画によって挺入れすべく、占領軍の一部局 CIE（民間情報教育局）が映画フィルムと共に都道府県立図書館などに無償貸与した、16 ミリ映画発声映写機である。名称のナトコ（Natco）は商品名といわれており、総台数は 1300 台とされている。そして、昭和 27 年の講和条約で占領軍は撤退し、CIE の業務は米国大使館内の USIS（米国文化交換局）に引き継がれた。従って、ナトコ映写機の正式な名称は、CIE 映写機から USIS 映写機と変更された。

当時、映画映写機は高価であり、貴重品であった。このナトコ映写機は、講習会に参加して試験に合格し、操作免許証を交付された人間だけが操作を許された。そして、免許証を持った人間が居る機関にだけ、映画フィルムと映写機の貸出が許可されていた。従って、どこの図書館でも、都道府県立図書館から映画フィルムとナトコ映写機を借用して映画会を開催するためには、館内に免許証を持った係員が居なければならなかった。つまり、ナトコ映写機の免許証を持つ事は、就職に有利な条件の一つとなっていたと言える。

ともあれ、昭和 31 年、図書館職員養成所で講習会は開催され、私たち B コースの学生十数名はほぼ全員参加した。講師は東京都教育委員会の男性職員であった。持ち込まれたナトコ映写機は、黒くて頑丈な作りの中型トランク程の大きさであった。恐らくこの映写機は、戦争中米軍兵士慰問用に使用されたものかと思われるが、定かではない。とにかく、移動映画会に使用できるよう、運搬に耐える堅牢な構造に出来ていたようであった。講師はまず、映写機の原理や構造について説明し、フィルムを装備して、実際の操作を演じてみせた。それから、学生一人ずつが操作の手ほどきを受け、映画を黒板に掛けた携帯用スクリーンに映写した。映写機は 2 台あったように記憶する。かなり長時間の



実習は終り、確か翌日に実技試験があった。講師が試験官となり、学生一人ずつが映写機を組み立てて映画を写すまでを、側で見守ってチェックした。試験はかなり厳しいものであった。試験官が途中で素早くスイッチやボタンに手を触れたり、フィルムをずらしたりして故障の状態を作り出すので、受験者は緊張したものである。

しかし、試験は無事に終了し、何か月か経って全員に免許証が交付された。免許証は縦 93 ミリ・横 63 ミリ、名刺位の大きさで、表紙を含めて 8 頁、定期入れに収まるサイズであった。濃紺の表紙には金文字で「USIS 映写機操作免許証」と「東京都教育委員会」と印刷され、2～3 頁に各自の写真・本籍・住所・氏名・生年月日などが記入されている。「東京都教育委員会」の公印も押され、写真には割印も捺印されている。この堂々たる免許証は、私を含めて多くの級友には無用に終わったが、宮崎県立図書館に勤務した小野和道氏は県内での移動映画会に活用したそうである。また、農林省農業総合研究所図書館に勤務した浅井堂朗氏は、旧ベトナム大使館から文化映画フィルムとナトコ映写機を借用して映画会を開催したとの事である。講習会は無駄では無かった訳である。その後、新しい映写機が開発・導入され、ナトコ映写機はその役目を果たして、廃棄されたと思われる。

追記。この回想の記述に当たっては、『図書館用語辞典』（図書館問題研究会編 角川書店 1982 年刊行）の「ナトコ映写機」の項目を参照した。また、上記の級友小野氏・浅井氏の他、同じ級友坂本徹朗氏・小野正男氏の協力を得たので、ここで感謝したい。特に「免許証」の実物を保存・所持し、そのコピーと共にデータを提供して下さった浅井氏には深く感謝したい。

(2007.10.10)

### 研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度 3 回（6 月頃、12 月頃、3 月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200 字程度）
- 発表時間（通常質疑応答を含め 1 件 1 時間程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）



## 運営委員会通信

### ■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

従来運営委員会は、研究集会・研究例会と同所・同日に開催してきましたが、次回の場合、研究例会と同所・同日の開催が困難です。このため、定例の研究例会とは別に臨時の研究例会を開催し、あわせて運営委員会を行うことになりました。

次回運営委員会は、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。なお、臨時の研究例会のご案内は、前ページをご覧ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

### 記

- 日 時 3月15日(土) 15時30分～17時
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン8階 司書・司書教諭課程室
- 内 容
  1. 25周年記念事業決算について
  2. 2007年度決算について
  3. 2007年度第3回研究例会決算について
  4. 2008年度第1回研究例会について
  5. 2008年度研究集会・総会について
  6. 2008年度事業計画・予算について

ほか

### ■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2007年12月8日

場所：明治大学

以下のような事項について、協議しました。

1. 2007年度第2回研究例会について
2. 25周年記念事業寄附金について
3. 『図書館文化史研究』第25号について
4. 『ニューズレター』第102号・103号について
5. 2007年度第3回研究例会について
6. 2008年度研究集会・総会について
7. 臨時運営委員会・特別例会の開催について
8. 会員動向

ほか

## 事務局だより

### ■■ 25周年記念事業寄附金ありがとうございます ■■

『ニューズレター』前号に、創立 25 周年記念事業寄附金募集のご案内と振替用紙を同封し、会員の皆様のご協力をお願いしましたところ、沢山の方にご理解をいただき、多くのご寄附を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

12 月末日現在で、ご寄附をお送り下さった方は 70 名を超え、金額も 50 万円を超過しました。重ねてお礼申し上げます。

当初のご案内では、ご寄附の募集期間を 2008 年 3 月 31 日までとする予定でしたが、上記のように既に多額のご寄附を頂戴していることから、1 月末日をもって締め切りとさせていただき、できるだけ早い時期に会計をご報告申し上げます。

### ■■ 会費納入のお願い ■■

2007 年度会費をまだ納入されていない方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙と会費納入のお願いの文書を同封しました。至急ご送金ください。

### ■■ 住所変更等のご連絡をお願いします ■■

研究会からの刊行物の送り先などについて変更が生じた場合、あるいは封筒貼付の宛名ラベルの記載が不正確な場合、早めに事務局までご連絡ください。

### ■■ 会員動向 ■■

#### 新入会

やまだ みゆき  
山田 美幸 (熊本学園大学)

研究分野： 学校図書館論

あんどう ともはる  
安藤 友張 (九州国際大学)

研究分野： 戦後日本の学校図書館史

#### 退会

森 茜